

宮村 忠（みやむら ただし）

関東学院大学工学部名誉教授、工学博士

1939 年 東京都生まれ

1985 年 関東学院大学工学部教授

2010 年 関東学院大学工学部名誉教授

一般社団法人 横浜歴史資産調査会 代表

NPO法人 本所深川 代表

宮村河川塾を主宰する。



とくに利根川研究においては第一人者。利根川は、山間部の集水地域が 4 割、平野部が 6 割という特異な流域構造で、水資源には不利、しかも集中性豪雨のため洪水の危険性も高い川。古くは荒川と並列し東京湾に直接注いでいたが、明治末から人工を加え、千葉県銚子に流れるようになった。

法律上のダム区分からたった 2m 低いだけの約 13m の高さの堤防が全長 450km も連なっている現状からみて、首都圏の安全の為八ツ場ダムの治水機能を重視し、その早急な建設に賛意を公言している。

土屋 信行（つちやのぶゆき）

技術士（建設部門・総合技術監理部門）

土地区画整理士

1950 年 埼玉県生まれ

1975 年 東京都庁に入庁。以後、土木部門で様々な要職を歴任し、2003 年より江戸川区土木部長を務めた。

2011 年 （公財）えどがわ環境財団理事長に就任。



都庁では、環状七号線、八号線の建設整備計画に従事してきたほか、汐留、秋葉原区画整理など数々の土木事業に取り組む。江戸川区土木部長としては、放置自転車ゼロを目指して日本一の葛西地下駐輪場を完成させ日本土木学会賞を受賞。区内の 7 割が海拔 0m 地域という江戸川区において、住民の命を守るための高台避難地としてのスーパー堤防計画を推進。講演活動で区民の防災意識の向上をはかるなど、様々な安全対策に取り組んでいる。